

【発行元】

株式会社井木組（倉吉支店）
〒682-0017
鳥取県倉吉市清谷町2丁目63
大成産業ビル1階
TEL：0858-25-5035
FAX：0858-24-5568

次世代の生産・物流拠点：スマート工場・倉庫への進化

建築が支えるDX（デジタルトランスフォーメーション）と持続可能性

産業構造が急速に変化するなか、工場や倉庫に求められる機能は「荷物を置く・作業する」場所から、ロボットやデータが主役となる「高機能な情報インフラ」へと進化しています。

最新テクノロジーの性能を最大限に引き出し、長期的な競争力を生むための建築戦略を解説します！



1. 自動化設備のポテンシャルを引き出す「物理基盤」

自動運送ロボットや自動倉庫の導入には、従来の建築基準を上回る精度が求められます。

① **「超平滑床（スーパーフラット床）」**：わずかな段差も許されないロボット走行。センサー誤作動や荷崩れを防ぎ、稼働率を最大化します。

② **「柔軟な空間」**：柱の間隔を広く取る「大スパン設計」採用することで、将来のライン変更や大型設備導入に応えられる、制約のない空間を確保します。

物理基盤の精度こそが、自動化投資のROI（投資収益率）を左右します！

2. デジタル化の動脈を支える「通信・エネルギーインフラ」

全体の「見える化」に向け、建築段階から強固なデジタル環境を組み込みます。

① **「安定した「通信環境」の構築」**：建材の配置工夫や配線ルートの事前確保により、膨大なセンサー群を支える死角のないネットワーク環境を構築します。

② **「省エネ・脱酸素」**：電力・空調を自動制御する「FEMS」導入を前提に設計を行います。高断熱・効率的な「ZEB」仕様を組み合わせることで、ランニングコストと脱酸素を同時に実現します。

通信とエネルギーはスマート工場・倉庫の「血流」です！

設計段階でのインフラ構築が、後付け不可能な運用効率と拡張性を生み出します。

